

犯罪から  
子どもを守る!

国際犯罪学会 第16回世界大会 公開シンポジウム

# 科学的根拠に基づく 子どもの被害防止 — 研究から実践へ —



**2011年 8月8日(月) 13:15-16:30 (12:45 開場)**

**開催場所** 神戸国際会議場 1階メインホール(神戸市中央区)

**主催** (独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター  
「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

**申込み** 事前登録制。下記よりお申込みください。

<http://www.anzen-kodomo.jp/>

※本シンポジウムは、国際犯罪学会第16回世界大会に参加登録されていない方もお申込みいただけます。

※一般公開以外のプログラムへご参加いただくには、別途学会へのお申込みが必要となります。

学会ホームページをご参照下さい。( <http://hansha.daishodai.ac.jp/wcon2011/index.html> )

**参加費  
無料**  
日本語・英語  
(同時通訳あり)

■お問い合わせ先  
シンポジウム事務局

株式会社インターナショナルランゲージアンドカルチャーセンター(ILCC)

TEL : 03-5562-3677 FAX : 03-5562-3666 E-mail : kodomo\_sympo@ilcc.com



独立行政法人  
**科学技術振興機構**  
Japan Science and Technology Agency

## ■ プログラム

13:15 - 13:25

開会挨拶

### 研究開発領域および本シンポジウムについて

片山 恒雄 「犯罪からの子どもの安全」領域総括／東京電機大学 教授

13:25 - 15:05

講演

13:25 - 13:50

#### 公共空間における子どもの被害の把握

原田 豊 科学警察研究所犯罪行動科学部 部長

犯罪の被害を防ぐには、科学的な根拠に基づいて焦点を絞った対策を取ることが大切です。この考え方を子どもの被害防止に応用することをめざした、私たちの調査研究と、草の根の活動の支援のための課題について紹介します。

13:50 - 14:15

#### 乳幼児に対する犯罪への科学的アプローチ

山中 龍宏 (独)産業技術総合研究所デジタルヒューマン 工学研究センター  
傷害予防工学研究チーム チーム長／緑園こどもクリニック 院長

子どもへの虐待を早期発見したり、虐待死か否かを判別することは容易ではありません。医療機関などの専門家を支援するソフトウェアを開発し実証する取組みと活用に向けた課題について紹介します。

14:15 - 14:40

#### 司法面接による子どもの被害把握

仲 真紀子 北海道大学文学研究科 教授

子どもを守る上で、子どもから事実を聴き出すことは重要です。児童相談所と協働し、子どもに対する面接法とその訓練プログラムを開発すると共に、人材育成を行う取組みと課題について紹介します。

14:40 - 15:05

#### 面接者の訓練：英国における研究者と実務家の協働

Ray BULL レスター大学 犯罪心理学部 教授

英国では 1986 年に取調べの録音・録画が立法化され、研究によって警察官の取調べの問題点が明らかになりました。面接法のガイドラインや訓練プログラムが整備された経緯や成果について紹介します。

15:05 - 15:20

休憩

15:20 - 16:25

総合討論

### 科学的根拠に基づく子どもの被害防止を社会実装するために

有本 建男 (独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター センター長

Ray BULL レスター大学犯罪心理学部 教授

仲 真紀子 北海道大学文学研究科 教授

原田 豊 科学警察研究所犯罪行動科学部 部長

山中 龍宏 (独)産業技術総合研究所デジタルヒューマン 工学研究センター  
傷害予防工学研究チーム チーム長／緑園こどもクリニック 院長

16:25 - 16:30

閉会挨拶

## ■ プロフィール



**片山 恒雄** 東京電機大学 教授

ニューサウスウェールズ大学(シドニー)にて博士号を取得後、中央大学理工学部土木工学科講師、助教授、東京大学生産技術研究所助教授、教授、防災科学技術研究所所長を経て、2006年より現職。一貫して地震工学、都市の地震防災に関する教育と研究に従事。2007年より「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域総括として、マネジメントに従事。



**原田 豊** 科学警察研究所犯罪行動科学部 部長

東京大学文学部社会学専修課程を卒業、科学警察研究所に入所。ペンシルベニア大学犯罪学・刑法研究所に留学、2000年に同大学から博士号を取得。2004年から現職。犯罪・非行の経歴の縦断的分析、GISを用いた犯罪の地理的分析など、先進的手法による実証的犯罪研究に取り組む。



**山中 龍宏** (独)産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター  
傷害予防工学研究チーム チーム長／緑園こどもクリニック 院長

小児科医。東京大学医学部卒。東京大学医学部小児科講師、焼津市立総合病院小児科科長、こどもの城小児保健部長を経て、1999年より緑園こどもクリニック(横浜市泉区)院長。1985年9月、プールの排水口に吸い込まれた中学2年女児を看取ったことから事故予防に取り組み始めた。



**仲 真紀子** 北海道大学文学研究科 教授

お茶の水大学大学院にて博士号を取得後、お茶の水女子大学助手、千葉大学講師・助教授、東京都立大学助教授を経て、2003年より現職。専攻は認知心理学、発達心理学、法と心理学。大人と子どもの対話、語彙獲得、記憶とコミュニケーション、目撃証言、司法面接などをテーマとする。



**Ray BULL** レスター大学犯罪心理学部 教授

エクセター大学大学院修士課程修了(心理学専攻)。理学博士。イーストロンドン大学講師、上級講師、グラスゴーカレドニアン大学教授、ポーツマス大学教授をへて、2004年より現職。1970年代初頭、エクセター大学で警察官の記憶と態度変容に関するプロジェクトに参加。以来、警察や司法の場において、特に面接法に関する研究を精力的に行っている。



**有本 建男** (独)科学技術振興機構社会技術研究開発センター センター長

京都大学大学院理学研究科修士課程修了後、科学技術庁入庁、宇宙開発事業団ロス・アンジェルス事務所長、海洋科学技術センター企画部長、日本原子力研究所広報部長、内閣府官房審議官、文部科学省科学技術・学術政策局長、内閣府経済社会総合研究所総括政策研究官などを経て、2005年より現職。

## ■ 開催趣旨

(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センターは、2007年から、「犯罪からの子どもの安全」という研究開発領域をスタートさせました。現場で問題解決に取り組む人々と研究者が協働して科学的な知見や手法を導入することにより、子どもの犯罪被害防止の取組みが効果的で持続的となるよう、研究開発プログラムを推進しています。

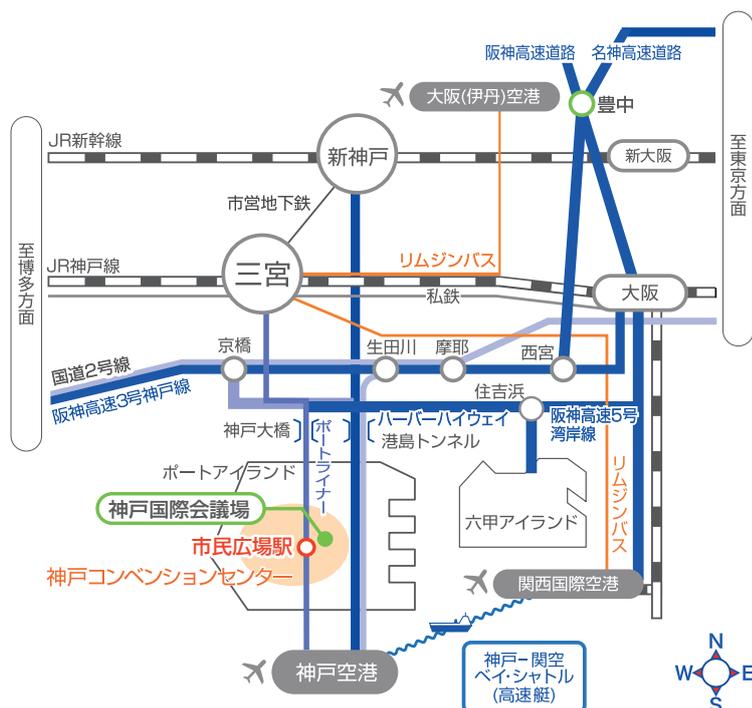
この度、国際犯罪学会第16回世界大会(神戸)において、研究開発を進めている13のプロジェクトの中から3つのプロジェクトの他、英国レスター大学 R. ブル教授に加わっていただき、公開シンポジウムを開催する運びとなりました。各プロジェクトが創出した科学的な知見や手法を広く国内外に紹介し、それらの成果を社会実装するうえでの現状のボトルネックを明らかにするとともに、それを克服するために何が必要か、領域全体として提言していくことを目指しています。

3名のプロジェクト代表者からは、公共空間における子どもの犯罪被害防止の取組み、児童虐待の早期発見を支援する取組み、被害を受けたり目撃した子どもから信頼性の高い情報を得るための取組みと、異なる視点からのアプローチをご紹介します。さらに、ブル教授からは、英国における司法面接法の研究と普及に関する現状についてご紹介いただき、その後、総合討論を行います。

科学的根拠に基づく子どもの被害防止の考え方や重要性を実感いただけたと思いますので、是非ご来場下さい。

「犯罪からの子どもの安全」領域総括 片山 恒雄  
(東京電機大学 教授)

## ■ 神戸国際会議場へのアクセス



〒650-0046

兵庫県神戸市中央区港島中町 6-9-1

市営モノレール「ポートライナー」

市民広場駅下車すぐ